食肉衛生現場からみた牛白血病の現状

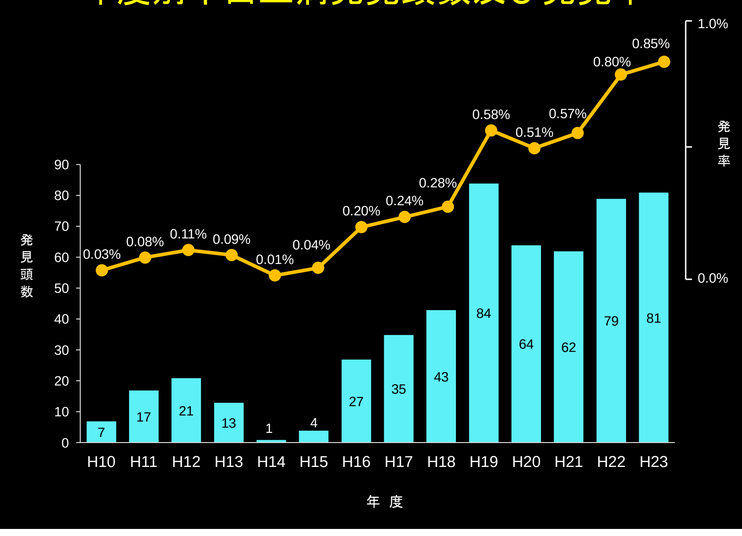
牛白血病は、リンパ系細胞の腫瘍性増殖により全身のリンパ節や様々な臓器に腫瘍病変が現れる疾病で、家畜伝染病予防法において届出伝染病に指定されています。

近年、牛白血病は全国的に増加傾向にあり、全国のと畜場におけると畜検査で発見される数も増加しています。と畜検査で発見された場合は、と畜場法に基づき全部廃棄などの処分を行うので、牛白血病を発症した牛が食肉になることはありません。

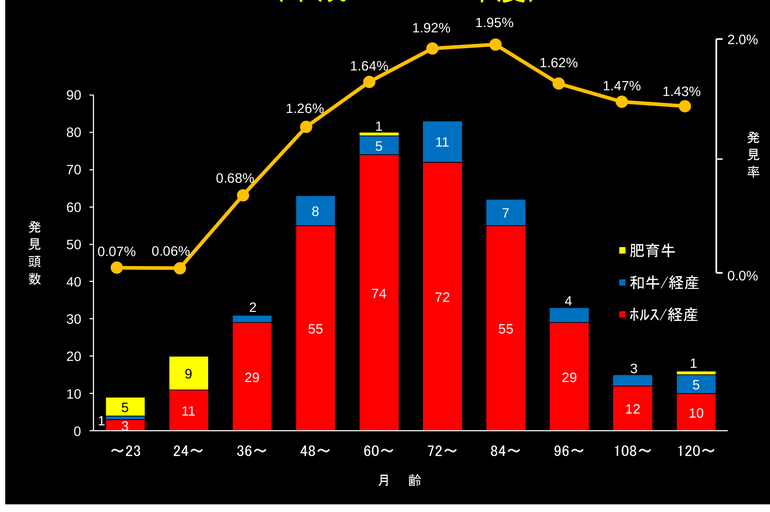
当検査所では、牛白血病の増加に対応して「牛白血病検査マニュアル」を作成して、病理組織学的検査などにより迅速かつ的確な診断を実施しています。

また、当検査所で発見した牛白血病発症牛について疫学調査なども行っています。

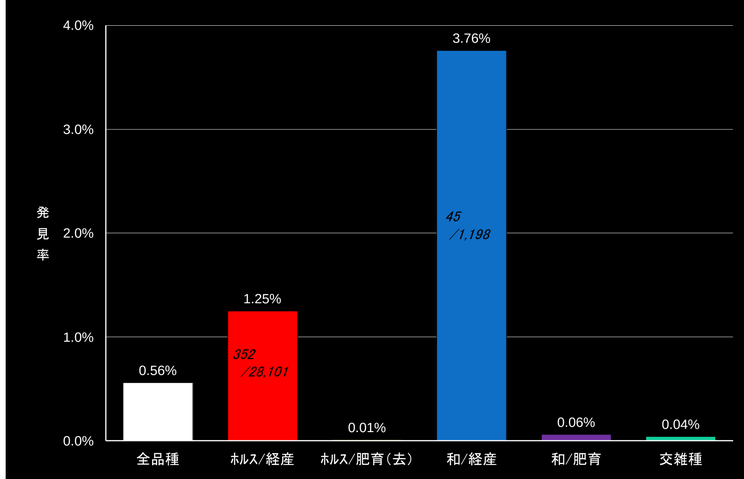
年度別牛白血病発見頭数及び発見率



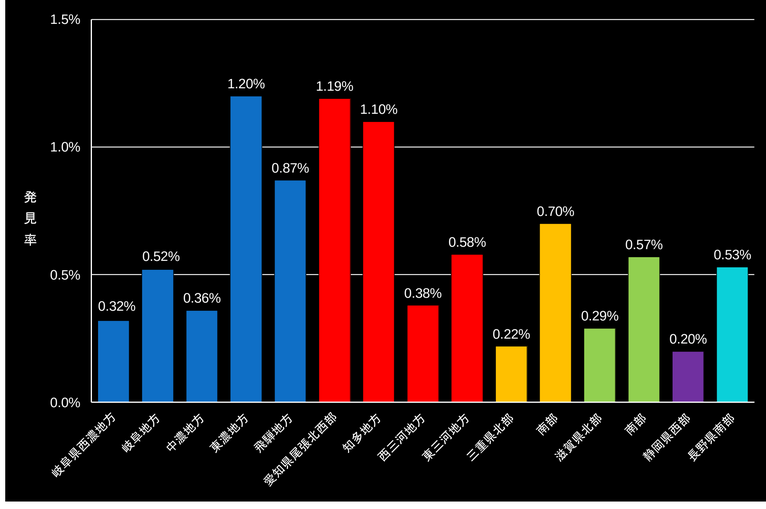
月齢別牛白血病発見頭数及び発見率（平成18～23年度）



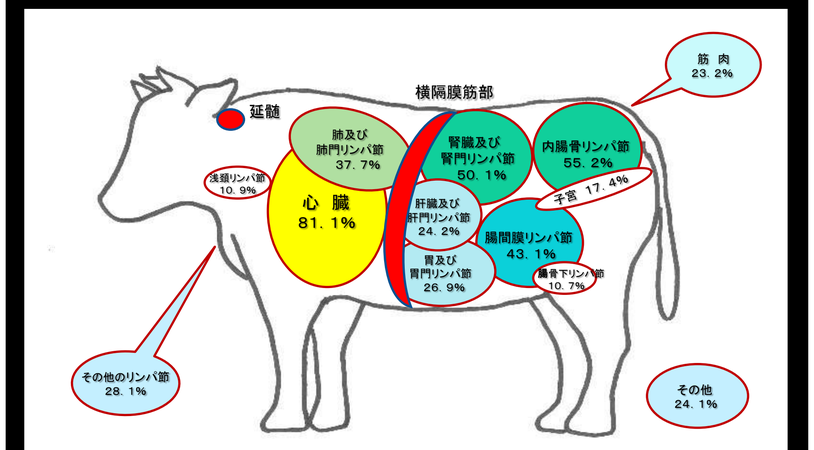
牛種別、性別牛白血病発見率（平成18～23年度）



最終生産地別牛白血病発見率（平成18～23年度）

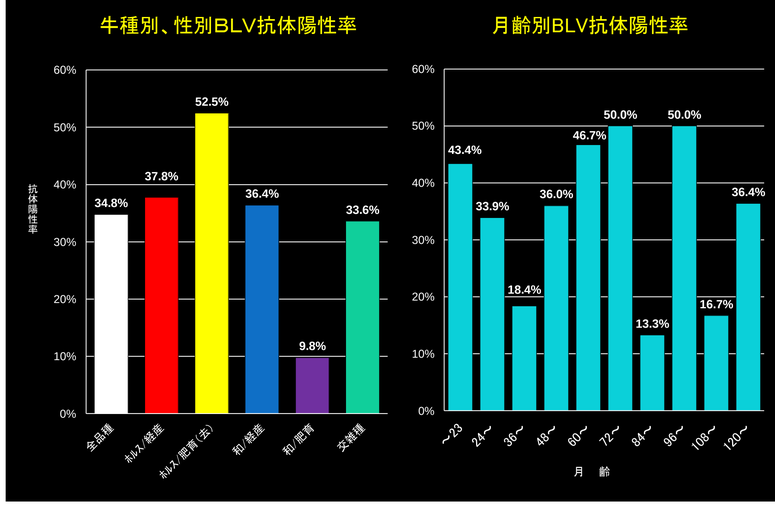


腫瘍病変の臓器別発生率（平成18～23年度）



※ と畜検査時の発見であり、発症牛の全臓器について確認したものではない。

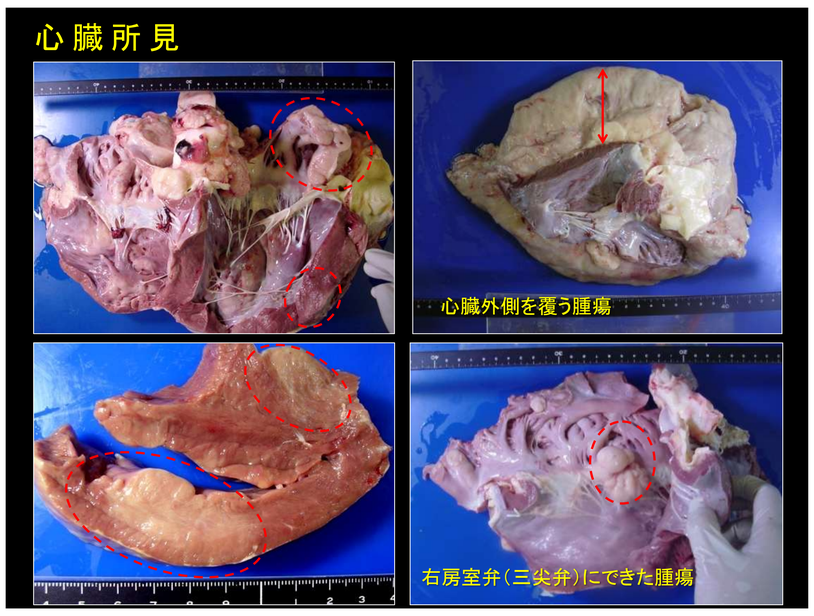
牛白血病無発症牛の牛白血病ウイルス（BLV）抗体保有状況調査（平成19～21年度）



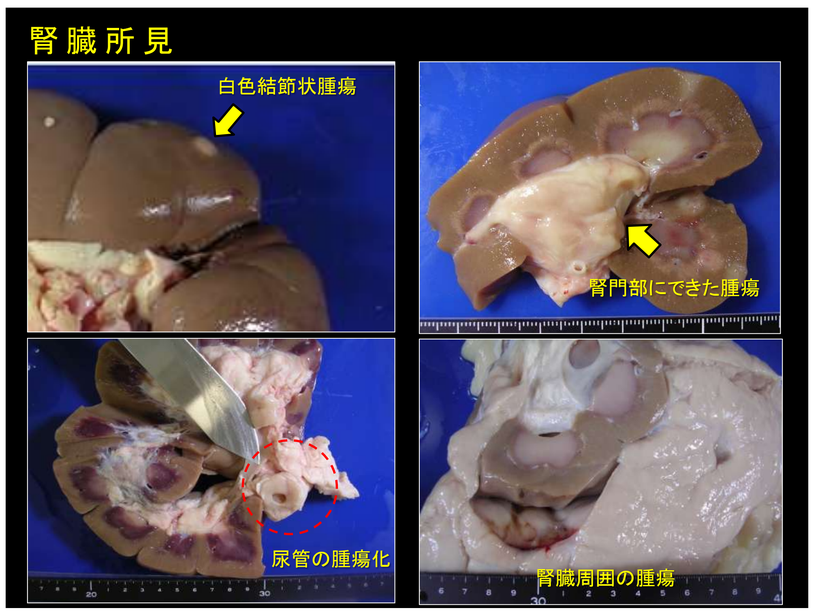
眼球突出（生体所見）

牛白血病発症牛の6.1%にみられた（平成18～23年度調査）

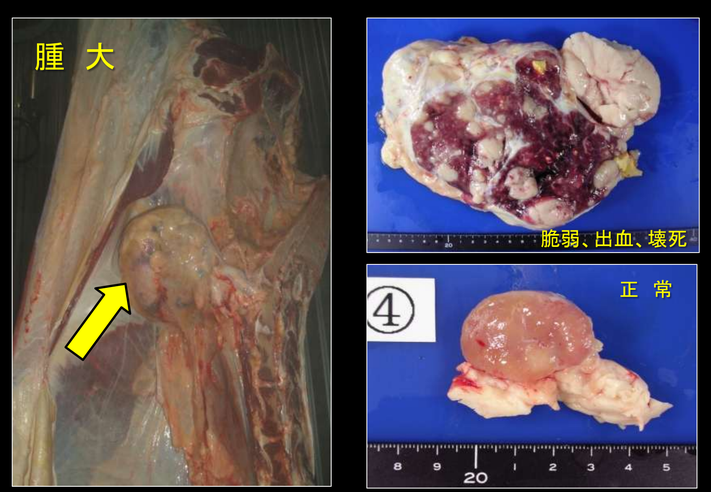
心臓所見

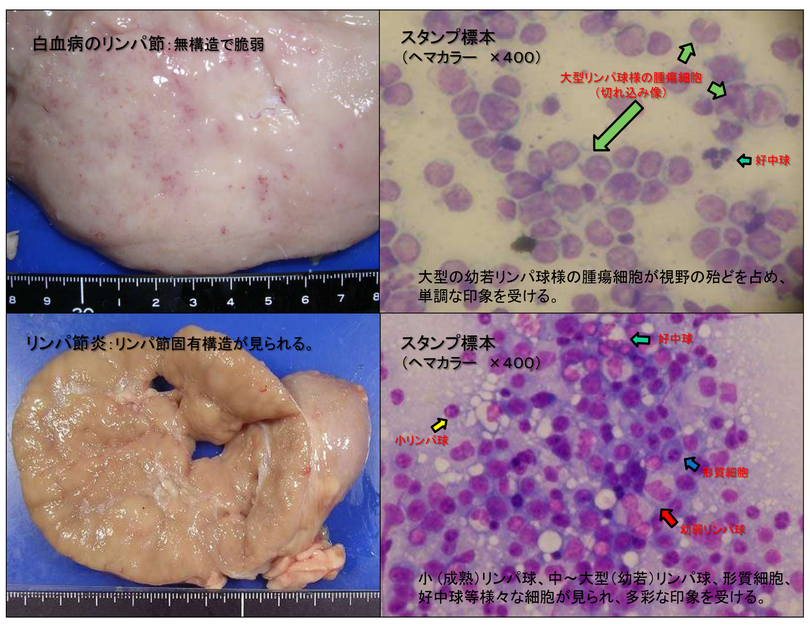


腎臓所見

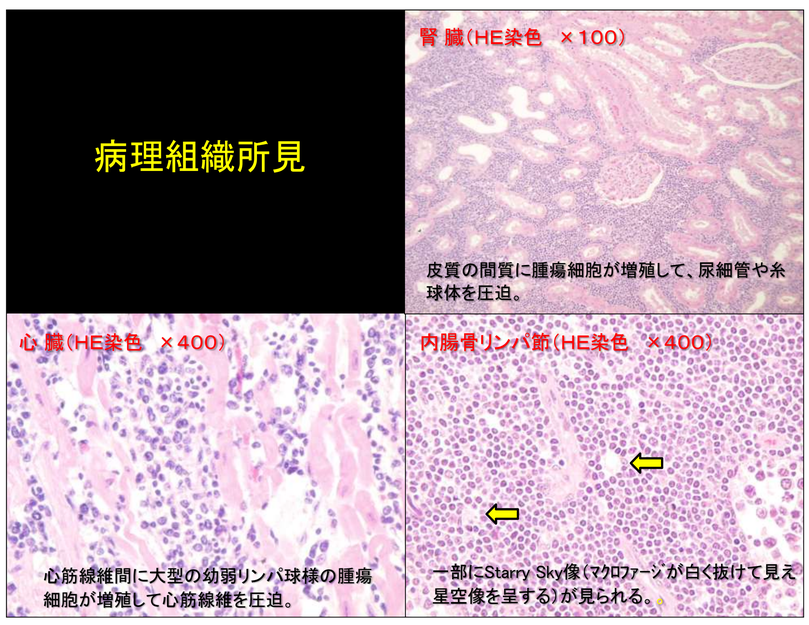


リンパ節所見（内腸骨リンパ節）





病理組織所見



岐阜県食肉衛生検査所